

May 2004

感動、 ふたたび

尻別川の未来を考える オビラメの会



2年連続で人工授精に成功 昨季の2倍量

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」（草島清作会長）は2004年5月7日、北海道倶知安町内で飼育中のイトウ親魚の採卵作業に臨み、昨シーズンに引き続いて、尻別川産イトウ＝オビラメの人工授精に成功した。

作業にはオビラメの会会員ら約10人が参加。北海道立水産孵化場から川村洋司さん、小出展久さんの専門家2人も駆けつけた。水門を調整して飼育

池の水位を下げ、飼育中のイトウ（4匹）を3人がかりですくい、素早く担架で運んでいったん別の水槽へ。改めて一匹ずつ取り上げ、麻酔液を溶かし込んだ別の水槽に移して、麻酔状態になったことを確認してから、採卵・採精作業にとりかかった。

4匹のうち、「ノリカ」（75cm、雌）と「チョースケ」（80cm、雌）は、よく太って健康そうなものの、成熟は見られなかった。しかし、体を朱色に染めた「チビ」（83cm、雄）は、小出さんが指で腹部をしごく、勢いよく精液が飛び出た。量はおよそ2.5ccだった。

最後は、飼育しているうち最大の「デカ」（117cm、雌。左の写真）。昨年、「オビラメの会」に初めて採卵成功をもたらした「幸運の女神」だが、彼女が毎年抱卵するかどうかはこの日、触診してみなければ分からない状況だった。麻酔をかけてタオルで目隠ししながら、3人がかりでトライしたところ、ふくよかな腹部からボウルに



向けて、まるでマシンガンの弾のように大量の卵が飛び出てきた（上の写真）。同時に、メンバーたちから大歓声が上がったことは言うまでもない。

絞り切ったところで卵を特殊な「体腔液」で洗浄し、すぐに「チビ」の精子を加えて授精をうながす。真水と一緒にビニール袋に封入し、恵庭市の道立水産孵化場に運搬された。

川村さんの測定によれば、今回の採卵数は約1万2400粒。昨シーズンのほぼ倍量だ。受精卵は同孵化場の「立体式孵化器」内で成長し、6月上旬ごろに発眼する見込みだ。

（写真撮影／鈴木芳房、文／平田剛士＝オビラメの会会員）



「デカ」から1万2400粒を採卵

飼育池管理を担当する高橋秀邦・オビラメの会事務局次長の話

「デカ」は去年、尻別川で釣り上げられた時にすでに抱卵してましたけど、1年間飼育した後の今回、その倍もたくさん卵を抱いていたということは、飼いが間違っていないことの証明だと思うのです。餌の準備など、ほんとに大変ですけど、「やったー」という感じで、うれしいです。麻酔をかけて卵を採った「デカ」もほかの魚たちも、その後、元気に回復しました。また大事に飼育していきたいです。

道工業大学・柳井清治教授ゼミと交流

巨大魚の魚拓に驚嘆

北海道工業大学(札幌市手稲区)環境デザイン学科の柳井清治教授と研究室の学生たち10人が2004年5月4日、尻別川流域をフィールドワークに訪れ、「オビラメの会」の草島清作会長らと交流した。

柳井ゼミでは、森から川を経て海に至る物質の流れや、サケの遡上に見られる海から陸への物質の流れについて



研究。悪化した河川生態系をどのように復

元するか、生態学的な観点から技術開発をおこなっている。尻別川で在来イトウ個体群の復元を目指している「オビラメの会」の取り組みについて、現地で実態を学びたいと、この日の交流会が実現した。

同大が所有するニセコ町内の山荘で、草島会長が尻別川で一九八九年に仕留めた体長1メートルあまりのイトウの魚拓を披露すると、学生たちはその巨大さに驚いた様子。かつて豊かだった尻別川の様子や、その尻別川でイトウが激



減してしまった要因などについて、真剣な表情で聞き取っていた。

草島さんの案内で尻別川のダムなどを見学した後も、夜半までディスカッションが続いた。(報告・平田剛士)

オビラメの会2004年度総会にご参加ください

とき 2004年6月12日(土曜)午後1時半

ところ ニセコ町民センター(北海道ニセコ町富士見)

お問い合わせ オビラメ事務局(下記)

★合わせて今期の採卵報告会もおこないます。会員以外の方の参加もOKです。もちろん入場無料!

オビラメの会

2004年度総会

6月12日(土曜日)

ニセコ町民センター

☆「オビラメの会」はいつも新入会を歓迎します☆

イトウ保護グループ「尻別川の未来を考えるオビラメの会」は、会費と寄付金などで運営される市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

■年会費 2,000円 ■郵便振替 02720-9-11016 ■加入者名「オビラメの会」

振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、「入会希望」とお書き添え下さい(送金手数料70円はどうぞご負担下さい)。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末(毎年5月末)までです。お振り込み後、おおむね1カ月以内に会員証とニュースレター最新号をお届けします。

「オビラメの会」ニュースレター 第18号(2004年5月発行)

OBIRAME Newsletter No.18 May 2004

- 発行 尻別川の未来を考える オビラメの会
 - 編集 平田剛士 FAX 0125-22-7501 PXN04427@nifty.com
 - 印刷と発送 吉岡俊彦/石崎秀典
 - 郵便振替 ■ 02720-9-11016 加入者名「オビラメの会」
 - 「オビラメの会」事務局 ■ 北海道虻田郡ニセコ町富士見65「ライズ」内
〒048-1501 TEL/FAX 0136-44-2472
- <http://homepage3.nifty.com/huchen/Obirame/index.html>
copyright 2001-2004 Obirame no kai

水と空気、みどりの大自然
ニセコが好きだ
楽しんだあとは川を語ろう

御食事処・酒房

ライズ

ニセコ町富士見65 TEL/FAX 44-2472
Email/itou110@estate.ocn.ne.jp